

国立学園 同窓会会報

第10号

国立学園小学校同窓会事務局

—国立学園小学校定時総会 & 同窓会開催にあたってご挨拶—

国立学園小学校 同窓会会長 川島一矩（1957年卒業30期生）

2年に1回の同窓会を今年は6月に開催する予定でしたが、国立学園の大切な行事と重なってしまいましたので、8月26日（日）の開催に変更になりました。これまでの同窓会は4～6月に開催されていたので、今年は異例の時期になりました。学生の皆さんにとっては夏休み中で、かえって都合が良いか或いは宿題の追い込みになるかもしれませんが、いつもより沢山の参加者を期待しています。

1926年（大正15年）に設立された国立学園は今年92周年で、100周年も間もなくです。ただ、先生方のお話によると、国立学園の将来に向けては色々と考えなければいけないことがあるようです。ただでさえ世の中は少子化が進んでいる上に、それに対応するために小学校から大学まで一貫教育を目指す学校が増えてきています。また、女性の社会進出により共働きが増えて、小学校にも放課後の学童保育の期待が増えているそうです。

あるレポートで、現在の小学生が大学を卒業するころには、その65%が今は存在していない職業に就くことになるだろうと書かれていました。そんな変化の激しい時代に、小学校から大学までの16年間で6歳の時に決めるなんてとても違和感があります。（途中で転校することもできはしますが。）私は小学校6年、中高6年の後に2回の受験があるのは、それなりに良いシステムではないかと思います。それを国立学園の特徴として生かしていけるのではないのでしょうか。

このような時代に対応していくには、受け身で対応するだけでなく、他者と協働して解決していく力を磨くことが必要であると思います。同窓会で先輩や後輩と交流するのも役に立つのではないのでしょうか。というわけで、やっと同窓会に結び付いたところで、ご挨拶とさせていただきます。

それでは、皆さまにお会いできるのを楽しみにしております。

～ご退任された先生方のご紹介～

□平成28年度ご退任

【小林 恵 先生】

中学・高校で美術を教えたこともありましたが、その土台となる小学校の学習の大切さを感じ、ご縁あって学園でお世話になってまいりました。その学園とも今年度でお別れすることになりました。図工室はもちろん、運動会や遠足、高原学校、修学旅行、社会科見学などいろいろな行事や日々の学園生活の様々な場面で、子どもたちの輝く姿をたくさん見てきました。素敵な子どもたちと出会えたこと、一人ひとりが私の宝物です。そして、その子どもたちには、人生の中で「美しいものを美しい」と素直に感じる心を養って行って欲しいと願っています。保護者の方々には、温かなお言葉やご協力をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さまのお幸せとご活躍を心からお祈りしています。ありがとうございました。

□平成29年度ご退任

【笠井 修一 先生】

学園に来て42年が経ちました。こんなに長く務めることができたのは、子どもたちや保護者の皆様、それから教職員の皆様の支えがあったらと感謝の一言につきます。

学園の魅力の一つに、校庭が木々に囲まれ木登りも自由という、豊かな自然環境で伸び伸びと学校生活が送れることがあります。私が務めた頃からその基本は変わっていませんが、子どものニーズに合わせて少しずつ変化していることもあります。うっそうと熊笹が繁っていたしらかばの池が、木登りや散策・観察ができる快適な場所になったこと、サッカーコートを広く取るために木を伐採したことなど。

環境を時代に合わせて変えていくことが必要であるように、人もより良く変わっていかなくてはなりません。でも、自分を変えていくことは難しいことです。今の安定している自分を守ろうとする意識が強く働くからです。ここで考えてほしいことは、子どものより良い成長を願うなら、大人自身が自分を変えていく必要があるのではないかとということです。我が子を温かく見守るといふ基本は変えず、異質な他者を受け入れる寛容さをもつことが大切だと思います。自分とは考え方の違う人でもじっくり話を聞く、違いを認めながら協力し合う努力をすることなどを大人が見本として示せば、子どもはより良く変わっていくと思います。子どもたちがまわりの人たちに支えられている自分と、まわりの人たちの支えになっている自分がいることを意識して、寛容な心をもって成長してほしいと願っています。

【黒木 一郎 先生】

国立学園にお世話になって、10年の教員生活を送らせていただきました。個人的に言えば、教員生活通算40年の節目を終えました。飽きっぽい性格の私が、よく40年も同じ仕事を続けられたと、自分で感心しているくらいです。

その理由は、私は「童心（わらべごころ）」が大好きなこと、新しい経験や発見をしたときの子どもたちの目の輝きが大好きなこと。そんな子どもたちと共感できることがなにより嬉しいことだから……。

言い換えれば、自分自身の中にいつまでも成長しない子どもごころがあるのだろうと思います。だから、いつも子どもたちの近くにおいて、苦楽を共にできる「担任」という仕事が性に合っていたのでしょう。しかし、いつまでも子どものままでいるわけにもいきません。そこで、今回91期の子どもたちと共に卒業させていただくことにしました。91期の子どもたちは中学に進んで若竹のようにすくすく成長していきますが、私はそういうわけにもいかないのです、しばらく養分を蓄えるためにお休みします。有り難うございました。

～ご退任された先生方のご紹介～

【柿原 直美 先生】

2009年の夏に学園での英語導入に関する話し合いから学園とのお付き合いが始まりました。2010年からは8年間、実際に英語を担当いたしました。振り返ってみますと、長い年月だったと実感します。個人的には、研究をしていた第二言語習得理論、発達心理学の応用、実践の機会をいただき、海外での学会発表会を含め、成果を世に問いながらの8年間でした。児童の皆さんには、今後の学生生活において、積極的に関わる素地となるものを伝えられていたら幸いです。すべての皆さまの今後のご健康とご多幸をお祈りいたします。

【長谷川 葉子 先生】

学園が英語の授業を開始した2010年から8年間お世話になりました。その間、授業を通じて多くの子どもたちと関わり、貴重な経験をすることができ、感謝しております。小学生が集中できる時間は短く、その学び方もさまざまです。絵や文字を見て理解を深め学ぶのが得意なタイプ、人の話を聞き意味を獲得し学ぶのが得意なタイプ、机に座ってじっと勉強するより体を動かし実際にやってみて学ぶタイプ、それぞれのタイプが1回の授業の中で満足する時間を持てるように配慮してきたつもりです。

学園では「聞く」「話す」活動に多くの時間を割き、多様な「聞く」「話す」活動、さらに「絵本」を活用することで、子どもの好奇心や想像力を刺激しながら授業を進め、一定の成果を出してきたと自負しております。

私は、今期をもって学園を離れることになりましたが、今後とも学園の英語教育がさらに発展しますよう、また、子どもたちが健やかに成長しますようお祈り申し上げます。

【石塚 智子 先生】

2013年度より、5年間学園の3年生から5年生、そして受験の終わった6年生と一緒に英語を勉強しました。たくさん子どもたちと触れ合い、教えるという立場ではありましたが、日々子どもたちの成長に目を見張り、励まされ、私自身たくさんを学ばせていただきました。3年生のワークブックでは、まずアルファベットの文字に色を塗ります。Aを赤で、Dを黄色で塗る子どものなんと多かったことか。Aは音楽でいうトラの音、Dはレの音ですが、そんな知識はなくても、それぞれの音のイメージに合った色を、子どもたちは自然に選んでいたような気がします。想像力をふくらまして、これからも楽しく英語に取り組んでいってください。

いつもご理解ご協力を惜しまず与えてくださった保護者の方々、先生方、そして私の授業を、目を輝かせながら受けてくれた学園の子どもたちに、心から感謝いたします。学園の英語科の益々の充実と成果をお祈りいたします。

【坪川 龍雄 さん】

3月末をもって退職することになりました。入校以来23年間大変お世話になりました。事務局なのでお子様と接する機会はあまりなかったのですが、遠くからいつも見守ってきました。私は本校の38期卒業生でもありますので、様々な行事に触れ、小学校時代の出来事が思い出され、懐かしく感じる日々でした。こちらに勤めることができたことに感謝するとともに、皆様の今後のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。本当にありがとうございます。

国立学園小学校
定時総会 & 同窓会 開催のお知らせ

<開催趣旨>

国立学園小学校同窓会会則21条第2項
および附則第2項に基づき、定時総会を開催する

<開催日時>

2018年8月26日（日）13：00～16：00

<開催場所>

国立学園小学校体育館

<開催内容>

第1部

総会 13：00～14：00

2018年、2019年度役員改選

2016年、2017年度活動報告および会計報告

2018年、2019年度活動方針および予算案

第2部

アトラクション 14：00～16：00

内容は当日のお楽しみ。

毎年恒例のビンゴ大会は実施します。

この機会に国立学園小学校にお越しください。
皆様にお会いできることを楽しみにしています。